

滑稽新聞社

〒444-0103 愛知県額田郡幸田町
大字大草字新屋敷(新井)63-1
大亀の歩が長く続けられ、の号
第338号 創刊1990年7月28日
E-mail: kokkei1949@yahoo.co.jp

滑稽新聞

生さると言う事は
目の前にいる人が一番
喜ぶ言葉を出すこと
言葉はその人が愛し
た内容を通り運命
をきたらう。人間
とは、愛しい新婦と
新「喜ぶ所」に集
まる本質を持つとい
える。言葉は人格は
んど。坂田道信

滑稽新聞満30歳に

転勤で東京住いと
なり、改綴の両親宛に
「祐天寺、だよ」と発行し
て送った。それが下敷き
になって、ひとり新聞を作ら
う」となった。猛暑にも
戸にも、又妻の不満にも
ひるまず、「道楽」へ火を点
け、酒と女は2号(合)
まで」と言う洒落がある
が、2号では終わらなかつた。
それどころか、「石(意志)」の
上に「さる」の心算を、さら
と重ねた。記事が「いと新
聞はごまき、会社と家の往
復だけではネタは尽かない。自
と出たが、せりたがりのさる
たがり」と言う性癖が、ついた。
20年目の事件は脚立
からの落下事故、退職後の
生活が一変した。ボケくしくした

新滑稽新聞
創刊1990年7月28日
編集長 坂田道信
発行所 愛知県額田郡幸田町大字大草字新屋敷(新井)63-1
電話 052-222-1111
FAX 052-222-1112
E-mail kokkei1949@yahoo.co.jp

新滑稽新聞
創刊1990年7月28日
編集長 坂田道信
発行所 愛知県額田郡幸田町大字大草字新屋敷(新井)63-1
電話 052-222-1111
FAX 052-222-1112
E-mail kokkei1949@yahoo.co.jp

新滑稽新聞
創刊1990年7月28日
編集長 坂田道信
発行所 愛知県額田郡幸田町大字大草字新屋敷(新井)63-1
電話 052-222-1111
FAX 052-222-1112
E-mail kokkei1949@yahoo.co.jp

20年(231号)笑いに焦点を当てて

10年(162号)動かし難い言葉は世にない

第1号の発行 この時住所は東京目黒区

ら本当に惚けてしまふ」とこれに言いつけ、
笑いの探究と英語の勉強に傾注。お陰で未知
の世界に視界が広がり、物とまぐ場面を繰返
を繰り返した。日本笑い学会、尋常中興業校、語
学留学、英会話、スノー等々、笑いが転じた。
人生いろいろ新聞も色々2000年代
になると一般新聞もカラー化に、吹けば飛ぶよう
に当紙だが、読者に少しづつ「見映え」で楽しんでおらうと、カラー
刷りに切り替えた。費用は増すが、所詮「道楽新聞」。中身の乏しい所を
り色仕掛けでカムフラージュした。
今更にはこの人との出会いから始まった
JAPAN鷹山会(※)で米沢市へ行く。東京に戻る電車の中、あの
ハガキ道伝道者の坂田様と同席した。既にこの方の講演以来、
多ハガキを始め、その素晴らしさは身をもつて実感していた。
「杉浦さん、アキラもひとり新聞やった
らええよ。複写ハガキとひとり新聞
は車の両輪だよ。これ続けたら人生
が変わるよ」と言われた。この言葉を
「天の声」の如く受けとめ、即「その気」になった。
それから30年。坂田様の言葉通り、次々と
貴重な出会いや交流、経験が自分の
人生を形作って行った。坂田様との邂逅は笑
に幸運で、正しく「一瞬早すぎず、一瞬遅
過ぎない時」だったと、今しやけけ思う。



杉浦康司様
おかげさまで、
今や杉浦様の一人新聞は多くの
文化となり、人々を幸せに
していること、大変うれし
く感じています。
お礼申し上げます。
坂田道信

私の人生を大転機に下さった坂田道信氏と、頂戴ハガキ

* 江戸時代中期取りつた江戸前だった米沢藩を大改革し再建した著主杉鷹山。氏と尊敬する仲間が全国から参集、長崎の深沢清久発起。

東京オリンピックを2回も見れるとは!

コロナ禍で人々の不安と暗雲が立ちこめる首都圏東京。ふたたび安全なことを「...」と言う空気の東京オリンピックは開催された。TV中継が始まると連日日本人選手の活躍とメダルが次々と知らないうちに「熱く」なっていた。柔道だったり、卓球

だったり3年ぶり正式種目のソフトボールだったり、そんな中、「ん？」と気になったのが女子体操の村上茉愛選手。「体」と言う柔らかな「股関節」と言う解説者。股関節は自分にもある。があの開脚はムリ。真似したら、股裂きの刑には「ちやうど」自重。その代わり、通院する接骨院で「コマネチ」股関節ごと歩く感じ」を指導されていることを再認識。心からは「秀才」を穿いていっている気分が歩いているやう。意外いいかも。

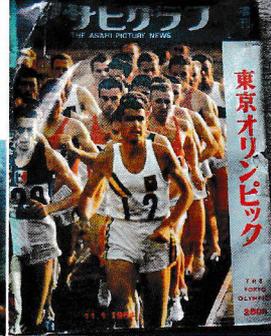
57年前のオリンピックの記録が我が家に残っていた。アベベ(マラソン)、遠藤幸雄(体操)、三ツ矢義信(重量挙げ)等の金メダリストの名前は、今もまだ脳に焼きついていいる。もう一人左倒的に強かったのが「アニマル」と恐れられた渡辺長武(レスリング)。氏の功績を称えるパリーサーが80年代末聞かぬ自分も出席させて貰った。同じパリーサーにあつ浪越徳次郎さんか。超元氣な先生にその秘訣を尋ねた。ワッハッハと高笑いした後「簡単です。出てく出てくる。入めることだけ考えてる人はダメだね。」この答は、その



金メダルの渡辺選手



浪越徳次郎の30周年の指圧



東京オリンピックの活躍とメダルが次々と知らないうちに「熱く」なっていた。柔道だったり、卓球



その中の「ペーゾ」アベベ選手



フィリピン 金メダリストが誕生した

注意人物と疑われ始めた。でも地道な練習態度と成績を重ね金メダル。政府も設けりと認められた。今はこの国の英雄よ!と大興奮の様子でその偉業を称えていた。何だかこちららまで嬉しくなりました。

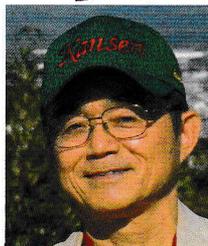
汗相感 ▼ミッドオリピックに出場したアベベ所属のソフトボール選手を会社の大会で見て感動したことを昨日の事のように思い出す。▼08



2021年 秋 131号

今号の表紙はこんなふうな顔だ。五輪に一番ふさわしい名前。前々金市さんだから。▽昨年、コロナ対策として作ったKANSEN帽子(感染防止)。オリンピック期間中はテレビの前で「観戦帽子」に変身。気分も高揚した。

▼オリンピックの熱戦を観ていると「キンナーの夏」になった。▽鬼に全裸、橋本(天輝)に鉄棒。余裕の駄ジャレ。▽土壌改良用にササのライ麦を刈り取って来期用に脱穀した。半世紀以上前の足踏式脱穀機が鳴下さん宅にあった。お盆を前にあつ世に行つた祖父に再会したみたい。



JDT所属 KANSEN帽子



観戦帽子に早替わり



脱穀機が鳴下さん宅

滑稽新聞の足跡を遡つてみると昨年(2020年)が30周年だと判明。まいいか、電がゴールに矢向がす通り過ぎる様なものだ。